

春季連休中の行仙宿来宿舎の対応と作業

◇実施日：平成27年05月02(土)～06(木)

◇参加者：別紙

5月02日(土) 天候：快晴 (来宿者10名、予約者無し)

2日～3日迄は、晴の予報であり梶野氏に連絡し、管理棟屋根ペンキ塗替えをする事にした。

8時過ぎに行仙宿に到着。行者堂前に奉納幟旗を6本立て、管理棟内に保管していた「鯉のぼり」も立てる。

木梯子で屋根に上がり、ワイヤーブラシで錆を落とす。どういう訳か東側(玄関側)の屋根トタンが赤茶に錆びている。9時前に梶野氏に加わり二人で錆落とし。梶野氏はドリルにワイヤーブラシ装着した電動具で錆落としされる。出来栄は手よりも早くきれいに錆落としが出来たが充電切れとなり、結局人力ワイヤーブラシで錆落とし。

行仙宿は、発電機で発電が出来るため、次回は電動ブラシで錆落としが出来る事が分った。

青木氏も上って来られ、錆落としした屋根を掃いて下さる。西側の屋根は錆が少ないが、幕で掃いた位では谷部のごみが取れず、結局ワイヤーブラシで全て落とす必要がある。午前中に錆落としを完了し昼食とする。

午後、梶野・川島がペンキ塗り。少し濃い様であるが、うすめ液のシンナーが無く塗りはじめると、6Lのペンキ量では不足の

様に思われ、出来るだけ延ばしてペンキを塗る。その間、青木氏は発電機室の屋根の錆落としをされる。



錆落としと掃き掃除 東側屋根ペンキ塗り 西側屋根ペンキ塗り

15時頃に屋根ペンキ塗替えを完了したが、ハフ板を塗装するペンキが足りず、沖崎氏にペンキ追加と明日持参する旨を連絡する。15時半過ぎに梶野氏下山、ご苦労さん。

16時、山口県支部?の野原龍夫(防府市)、金光康資(山陽小野田市)さんが連休中の行仙宿での作業応援に来て下さる。

今年の十二支会での再会以来で、佐田ノ辻で握手して迎える。



ペンキ塗替えた屋根

遠方より友来る!

本日の夕食は、青木氏調達の鍋料理と常連の乾氏が今回参加出来ないからと送って頂いた山菜の天麩羅である。

宿泊予約が1名とのことから精々3名位と夕食を始める。

野原・金光さんが、山菜天麩羅を担当調理して下さり、同宿者と一緒に食卓を囲んで揚げたての天麩羅等を振舞い談笑するも1人増え1人増えして、結局10名となってしまった。

本年は、若い方も多く大きな荷を背負って、吉野や本宮を目指す奥駈道完走されている方が多い。

早朝立ちの宿泊者もあり、18時半過ぎに管理棟に移り、我々だけで談笑・懇親を深める。青木氏は指定席のある行仙宿へ、宿泊者の面倒をお願いする。山口Grと川島は、管理棟で就寝。

5月03(日) 天候：小雨・霧雨 (来宿者12名中予約4名)
5時半に行仙宿に行くと昨夜の宿泊者が大半出発済み。早朝より宿泊者にアドバイスして下さった青木氏は一寝入り中。

朝食後、霧雨で雨具着用不要と判断して、行仙岳北面段差が補修要と聞いていたが、現地を見ていない事から、金光さんと1斗缶に木杭約12本と大ハンマー1丁を背負って行仙岳へ。

行仙岳捲道を辿ると木杭で補修する所が2箇所あり、そこに木杭を置き、帰りに補修することにする。

雨が上がれば段差補修に青木氏来るとの事だったが、湯川・野原さんが代わりに来て下さるが、トンガと鋸が欲しいが、託しなかつたので持参なし。

これ以後、湯川君の行事報告第1805回―2に委ねます。

沖崎氏に持経宿の寄贈清酒2升の持上げを依頼したが、白谷林道ゲートの鍵を忘れて回収出来ず報告。沖崎に続いて湯川君が

16時頃に下山。

速渡さん家族4人(夫妻と次男；筑波大、三男；信州大)は、奥さんを残し笠捨山へ、14時頃戻られる、後の2名は17時頃に行仙宿着とのこと。

速渡さん達6名と我々4名の計10名が食事する事から管理棟で夕食。調理は青木・速渡さんの奥様が、担当して下さり信州の名産、ジンドギスカン等の豪華なご馳走を堪能する。

雷観師は平成24年に死去された。保守を託された長野県下伊那郡の速渡さんは、小学生の子供を連れて見守りに来られていた。建立後18年になり、建立時の仲間に連絡して今回久しぶりに再会したとのこと

速渡さんと同行の方は、枚方市・68歳の多田さんは、地藏岳付近で間違って登り返すとテントが張られ、笑顔の速渡さん2に出会い、笠捨山頂で和歌山雷観師に逢い、道祖神の建立手伝いを頼まれ、何故か正直に連絡先を書いた縁から手伝う事になった。

八尾市・70歳の坂口さんは、銅鐸等の歴史に造詣が深い建具職人で、金峯山寺戸開式で出会ったとのこと。

雷観師・速渡・坂口・多田氏で道祖神を建立する事になり、台座が170kgあり、担い棒で担いだが折れてしまい、急遽新宮周辺業者をあたり、ひ・ふ・みの3分割に、道祖神も3分割で荷上げたとのこと。山頂の社は、坂口さんが作製、又、行者堂に立寄り花台を寄贈(天板は木曾檜、足は吉野檜で作製し、墨で書けなく雷観師がコテで刻印)、未だ使われており嬉しく感慨深いと話された。花台裏に刻印されているのを見て、これまで気付かなかったので、本当に不思議なご縁の出会いであったと思う。



管理棟で自己紹介と懇親会

5月04日(月) 天候：小雨 (来宿者14名中予約4名)

ラジオ天気予報は、低気圧通過との事から作業中止。

速渡さんは、息子さんの帰宅が一日遅れる事から熊野市駅に変更手続きに降りられる。

山上・根木・中前氏が登って来られるが、荷物が多いため必ず10時半迄に荷上げに登山口に降りるように、沖崎氏から託げがあった。

野原・川島は、持経宿の清酒を取りに行き、荷上げに間に合うように7時半前に下りる。9時頃に持経宿に着く。村吉車が無い。車一台分の路面の濡れが少なく池郷林道から下った様だ。置手紙をして車に戻ると、崩落危険箇所を見て来た村吉氏が戻られる。

崩落箇所は山側を削り通行止めをせずとも通れそうだと作業談。工事業者の連絡先を控えたと教えてもらう。山上さん達の荷上げの時間に合わせる為に早々に引き返す。

登山口に10時15分頃着くと、今階段の途中から落ちたと青木氏が左大腿部を押さえ痛がっている。一番下の手摺支柱に左太腿を痛打したとのこと。ズボンを脱いでないが血が出ていない様

だと・支柱が丸パイプなのでそうだろうと思った。(後日、最上段付近から滑り落ちている)

とりあえず左手の擦り傷にバンドエイドを貼って欲しい！、野原車にあったバンドエイドを貼るが、濡れ手ではがれやすい。

約30m離れた車に戻り赤テープで巻き固定するため、足を引かず歩いて行かれた。程なく車を運転して来られ、大丈夫かと問うと、オートマ車なので右足で運転可能、池原で安い物して戻り、ゆっくり登ることになると発進。

階段下に行くのと鉄塔巡視標識のL鋼アンクル支柱が、外れ紐が切れて使えないので川島車にあった被覆線で階段手摺支柱に固定。その後、切創原因は、鉄塔巡視標識のL鋼アンクルの角が立っており、このL鋼アンクルに激突して切創したものと推定される。

山上さん達は、交通事故と火事に遭遇して遅れ、ようやく311時過ぎに到着。途中、青木さんとすれ違い、階段から落ちて怪我したが、買い物に行くと言葉を交わしたと聞く。

金光さんは、昨日大ハンマーで木杭を叩いた時に、腰に違和感があり様子を見ると小屋に残られたが、水汲みに3回行って来たので、明後日の稲村ヶ岳登頂に支障がなさそうだとのこと。

12時半頃に山上夫妻・根木・中前氏が行仙宿に着き昼食。

沖崎氏のメール着信に気付き13時過ぎに電話すると、青木氏が救急車で紀南病院に今搬送され、切創箇所を縫うとの連絡でびっくり！。詳細は1時間後に行仙宿の通信可能な場所から電話する事に。電話すると未だ処置中だが尻辺りが痛いとの事で骨折している様だと聞こえるとのこと。早速、行仙宿の皆に知らせる。

その後、恥骨骨等の骨折箇所は、固定処置が出来ず自然治癒を

待つことになり、即入院と告げられず青木氏は帰宅すると言い張り、沖崎氏が新宮で1〜2泊もしくは大阪まで送ると説得したが、結局、池原のコンビニ店に停めた青木車迄沖崎が送り、青木氏が運転し帰宅された。

17時頃、川島に和佐又付近から帰宅中の電話連絡がある。十分気を付けて帰宅する様に！と伝えた。



持経宿・八重桜下で

昼食懇談中

転落時と怪我の状況は、青木氏が掲示板寄稿文より抜粋。

「今回私の不注意で皆様にご迷惑を掛け誠に申し訳ございませんでした。無事大阪に20前に到着。息子を呼び、やっとここ、4階の部屋までたどり着きました。

検証；行仙宿を出てダブルストックで階段手前まで下り、急階段の手前でストックを握っていた手を離し手摺を掴もうとした瞬間に足が滑る。足から滑り落ち(途中からものすごくスピードが上がる記憶あり)手摺最終の左側の支柱の外に左足が入り、太腿内側を強打。過去最高の激痛。背負子やらストックが階段に絡みつき、やっと脱出した時に川島さんが到着。

ズボンも裂けていなかったので最悪骨折の覚悟をして(この時

は、打身ぐらいで湿布をすれば何とかなるだろうと・・・)車を運転。池原のコンビニ店に到着後、車を降りた瞬間に太腿にニユルっとしたものが。おそろおそろズボンを下ろして見ると、バックリ傷口が、直ぐ救急車を呼んでもらい紀南病院へ。

今朝になり縫合部分を見ると、傷口が約12cm14針でした。太腿の内側すべてえぐい赤紫のアザ。診断書を見たら恥骨骨折、太腿骨裏側ひび、切れた箇所は筋肉までは到達せず。

痛みは座ったり横になったり立つ時にはあまり痛みが無いのですが、歩行は略不可能。部屋の中を四つん這いで動いています。骨折は自然治癒しもなく約1ヶ月、抜糸は10日ほどらしい。

普段は帰りも結構重いザックを背負ったの階段で、以前からかなり慎重に下りていましたが、今回荷物も無く気が緩んでいたとしか考えられず・・・。縦走中の本当の斜面で無く、この程度の怪我で済んだのも不幸中の幸いと思っています。

怪我が治ったら、真っ先に階段の滑り防止対策を講じたいと思います。

最後に、みなさん大変ご迷惑を掛け誠に申し訳ございませんでした。」

作業前に中前導師で勤行。行者堂扉の鍵なく、格子の合間から法螺貝を吹き上手く法螺の音が響き渡った、たいしたものと感じ。

14時頃から、今日は「みどりの日」、沖崎氏手配の2本の内1本を荷上げた「オオヤマレンゲ」を山上・根木・中前・金光・野原・川島で植樹する。小屋周辺は岩盤とその碎石で植栽に適さず、どうにかへり荷上げ地近くの奥駈道より約2m東側の平地に植える事に決まる。土を掘ると約30cmで岩盤となりツルハシ・バー

ルで割り、もう少し深くして周辺1mの穴を掘る。

鹿沼土と腐葉土を混ぜた用土に植え、堀上げた土を大きい干物用金網で篩い、大きな石や根を取り除き周りに入れる。土が足りず周辺から持ち寄り植え終えた。鹿等の食害防止に金網を張る。

三人寄れば文殊の知恵だが、船頭が多くていろんな意見が出てワイワイガヤガヤで、どうにか約2時間もかかり作業を終えることが出来た。この間、順峯中の塩川君も到着し植樹を手伝う



オオヤマレンゲ植樹班

獣害防止の金網張り

その間、速渡・山上さんの奥様が調理をして下さる。

夕食前に来宿者に、前田勇一さんの遺志を継いで、3年がかりの千日刈峰行で南奥駈道が復興したが、歩いて貰わなければ藪に戻る事から、行仙宿を建てることにしたが多くの課題があり、その一つが「命の水」の水場で、明治4年の修験道廃止令にそむき南奥駈道復興の為、怒田宿を建てられた実利行者にお願いして見つけた経緯がある、この小屋建設の苦労話は是非「新宮山彦ぐるーぷHP」を見て欲しい。宿泊者は宿泊予約して欲しい。笠捨山道祖神修復の速渡氏の紹介、宿泊料値上げの経緯、LED電灯点灯等についての話しをする。

管理棟で13名が集い、新しい食材が荷上げされ、鮪刺身、乾氏差し入れの山菜にイカ等の具材も増えた天麩羅、信州の料理もあいまって豪華な料理に、持経宿から持上げた「八海山」、防府市の地酒「錦世界」(酒瓶のラベルに野原さんのスケッチ画が採用されている限定販売品)等で大いに盛り上がり懇親を深めた。宿泊者も多く管理棟で7名が寝る。

5月05日(水) 天候：晴 (来宿者6名)

夜半の強風も朝方にはおさまり絶好の天候だ。4時過ぎに塩川君が元気に吉野へと出立して行く。

速渡さん達は、笠捨山の道祖神修復に登られる為、我々より早く朝食。今晚も宿泊されるが、山上・中前・川島は、昼食後下山するので、お別れと再会の言葉を交わす。

交代で沖崎・畑林秀・濱野・大江加、田中氏が上って来る。5予定であったが、沖崎氏が青木氏の対応で仕事がかさみ、急遽不参加を決め、同乗者と田中氏も不参加になった。

尾鷲・海山の奥村・竹中氏は、予定通り小屋番の仕事全うに9時頃に上って来てくれたので本当に助かった。



野原・金光さん下山前に記念撮影

管理棟北側で薪作り

金光・野原さんは、明日稲村ヶ岳に登る為、水汲み後10時前に下山された。

根本さんは、佐田のノ辻でチェーンソーを用いて曲がった丸太を小切り、鉄楔と小ハンマーで薪割り、竹中・奥村氏が薪運び。

川島は管理棟ハフ板のペンキ塗り。

山上・中前氏は便所の汲み出し掃除、長年携わってきた山上きんであるが、未だ無かった詰りで長い棒で突く等難儀されている。市役所のエライさん中前氏も、悪臭に馴れ麻痺したと頑張っている。この作業が小屋維持活動で一番つらいだろう。現在の宿泊者数では、自然浄化能力範囲内だと思うが、今後バイオトイレ等の調査設置が検討題である。

管理棟の北側斜面に積み置きされた、長さ2m以内の間伐松・雑木丸太があり、川島がペンキ塗りを終え竹中・奥村氏の3人で斜面を転がし落し鞍部へ、根本さんも加わり小切りと薪割り。雑木丸太に鉄楔を打ち込むが、ねじれで割るのに難儀する。

作業は、11時過ぎに終了し、山上・速渡さんの奥様が調理して下さった昼食。

最後の小屋番になる奥村・竹中氏には、作業と要領を教える。



奥村・竹中氏は、12時過ぎに、羊蹄山登頂のトレーニング兼ね笠捨山へ。中前・川島は下山前に水汲み後、根本・山上夫妻

と13時過ぎに、速渡さんの奥様に見送られ下山。登山口の階段は、事故後だけに慎重に下る。

以後、下山後に奥村氏から電話報告を受け記載。

昼食後、速渡氏奥さんに頼まれた帽子等持ち笠捨山へ。旧通信道分岐で奥村氏は旧通信道、竹中氏は奥駈道へと別行動。

15時過ぎに笠捨山に着き、少し速渡さん達の仕事を手伝う。

15時半頃道祖神修復が略終わり奥村氏は、1人旧通信道経由で仙宿へ戻る。竹中氏は16時前に作業用具の荷を少し持ち下山し18時頃に戻る。最後の後片付けを終えて、速渡さん達は18時20分頃到着。

奥村氏は、葛川辻まで行き鉄塔巡視路を辿り、間違いに気付き戻ったが迷ったようで、竹中氏が時折携帯電話で連絡していたが、余り遅いので18時半頃速渡さんが迎えに行かれ、通信道分岐辺りで合流して仙宿に戻れたとのこと。

電池も無く陽がくれ遭難一歩手前の様だったと思われる。不慣れな彼らには同一行動する指示不足を痛感した。

自分達で調理せず、速渡さんの奥様が、調理した食事を頂戴したとのこと。連休中同宿した速渡ご夫妻に手助けして頂き、本当に有難く感謝申し上げます。

5月06日(木) 天候：晴。

速渡さん達は、8時頃に下山。奥村・竹中氏は、水汲み後、行者堂前の幟旗撤収、管理棟・行仙宿の清掃と戸締りをして、12時頃に下山したとのこと。

(記 川島)